



## 「死者の月」に寄せて思うこと

福田誠二神父

死生学という「人間の死」について考える分野では、「人間の死」を「第一人称の自分自身の死」、「第二人称の自分の愛する人の死」、「第三人称の多くの人の死」に分類しているが、現代人にとって「第一人称の自分自身の死」や「第三人称の多くの人の死」よりも、「今生きている私」のパートナーである「第二人称の自分の愛する人の死」の方がより耐え難いものであると考えられてきた。確かにそうであるが、しかしながら一方で、「9.11」や「3.11」、その後の世界や日本における種々の災害やテロリズムなどによる多くの犠牲者のことを思うと、自分とは直接的には関係がないと思っていた「第三人称の多くの人の死」のことが現代を生きる我々人間にとって「より切実で特別に“はらわた痛む”人間の死」であるように思える。そして、「第三人称の多くの人の死」の中には、当然のことながら、「テロリストと呼ばれる、多くが十代、二十代の若者である彼らの死」も含まれている。

9月14日が「十字架賞賛」の祝日、その翌日が「悲しみの聖母」の祝日であった。この両日に読まれた聖書の箇所に一貫して流れているメッセージによれば、神との約束を破って真理と善という観点からは愛すべきではない罪人である人間を、神は非常

手段として自身の独り子を十字架上で死なせることによって救おうとされる。他者を救うために自ら痛まれる。これこそ、真の神に由来する十字架を通して示された真の神性の現れである。この意味で教会は「十字架賞賛」を祝う。痛みや苦しみや辛さを感じ、体験する我々人間は、この痛みを感じ、体験する人間性を通して、神の痛みという神の根源的な本性に同伴している。痛み、苦しむ人は神に同伴し、神に奉仕し、神を証言している。北森嘉蔵の『神の痛みの神学』である。

毎年迎える「死者の月」であるが、今年は「第一人称の自分自身の死」、「第二人称の自分の愛する人の死」だけではなく、特に「第三人称の多くの人の死、とりわけ、テロリストと呼ばれる、多くが十代、二十代の若者である彼らの死」についてもその意味を主イエス・キリストと共に考え、彼らのためにも祈りたいと思います。





ているので、他の方々に席を譲りたい」との事。…なるほど、このような気遣いをされる方も居られるのかと感服しつつ、…でも後輩の気遣いをお請けするのも気遣いだとも思うのだけど、いかがでございましょう？(の)

### 教会からの メール配信登録のお願い

幟町教会から、より多くの信徒の皆さんに、行事予定や勉強会、講演会、葬儀などのお知らせを早くお伝えするため、携帯電話やスマートフォン、パソコンにメール配信を行います。配信を希望する方は、次の方法でご自分のEメールアドレスを登録してください。

①:\*\*\*\*\*@\*\*\*\*\*に空メールを(件名も本文も入力せず)送信する



②折り返し届いたメール内容にあるURLをクリックして、名前を登録します。特に希望する情報の項目があればチェックを入れてください



③登録完了後、幟町教会から完了通知メールが届きます

## 霊名はノトブルガ

聖宣教企画部

MN

カトリックに辿り着くまで随分寄り道をしました。皆様も御存知の各種(?)キリスト教はもちろん、思い返せば自分でも驚くような不思議な宗教まで。中学生の私は確かな存在が知りたかった、目には見えないけれど何か大きな力があると気になって仕方がありませんでした。誰にも相談できず何年も探し続けていました。

広島に来て歌を習いたいと思い出会った方が門野群子先生でした。

家が教会に近い事から聖歌隊に誘っていただき早副神父様の勉強会に入り洗礼まで導いていただきました。

娘も私に相談なく瀧井神父様の御指導で中学生で受洗しました。

後は廿日市に墓地を買ってくれた夫…

実家で母の残した荷物を片付けていますと、書き込みのある聖書と古い讃美歌がありました、母は何も言わず逝ってしまいましたが祈る母の姿を想い、悲しい時寂しかった時母はどんなにか祈りに支えられたに違いないと強く感じます。

私が求めていた気持ちを母に話せば良かった、一緒に祈れたかもしれないのに。

私の霊名は召し使いの聖人ノトブルガです。何故決めたのか、思い出せない私ですが今の私にあまりにピッタリで選んだ理由は忘れて良いと思っています。可能な限り使っていただける者でいられますように。



## 広島ベトナム共同体の活動

TYT

8年前、広島ベトナム共同体として活動が始まりました。当時はまだ小さなグループでほとんどが留学生や研修生であるため、日本に滞在する時間はとても短くメンバーの数が毎月変わるほどグループとしても不安定でした。それでもベトナム共同体という存在やベトナム語の御ミサに与ることが多忙な彼らにとって1か月に1回の楽しみとなり心安らぐ時間でした。

時が経つにつれ「幟町教会にはベトナム語の御ミサがある」と耳にした人や、それまで教会があることを知らなかった人が足を運ぶようになり今では150人ほどのグループとなりました。また第1、第3日曜日に

ある勉強会を通して洗礼を受ける準備や生活に関する勉強、聖書を読み理解することを学んでいます。

今後もこのような活動を通して皆がきちんと御ミサに与ることができお祈りできるようにしたいと考えています。

\*ベトナム語のミサは、毎週第4日曜日11:00から行っています。



### 編集後記

カープが25年ぶりの優勝。勝因はいろいろ論じられていますが、地道に練習を重ねる選手の姿を、ファンが応援し、それが力になった結果かと思えます。信仰も同じく、信者の皆さんの日頃の姿が周囲の人に認知されることが、心を動かすのだと思います。特別なことではないけど、実行し続けることが大きな力になると信じて(ひ)